



緊急特集

「平成 28 年熊本地震」からみえる課題

「平成 28 年熊本地震」の最初の地震発生から明日で 1 ヶ月。観測史上初の震度 7 を 2 回観測するなど前例のない地震災害となりました。また救援物資、災害ボランティアセンターなどの課題が浮き彫りになりました。様々な課題を探ります。

救援物資で混乱

今回の災害で特にクローズアップされたのは、地震発生から 1 週間程度、救援物資が届かなかったという問題です。以前からも、報道された避難所に物資が集まり、そうでない避難所との格差が発生するという指摘はありました。最近では SNS の普及により、どこでこういった物資が足りないという情報が即座に提供されたり、物資を現地に運ぼうという方に他の方からも「相乗り」で物資が集められたり、といった前進もみられます。

それにも関わらず今回の地震では、道路の寸断等で救援物資の輸送路が限られ、交通集中による激しい渋滞が起ったこと、届けられる膨大な量の物資を仕分ける職員も緊急対応や被災状況の把握のため不足したこと、などが救援物資の配送で混乱を招いた原因とみられています。

また、今回の地震では大きな地震がたびたび起きたことで、避難所自体が危険な状態になったり、避難者が定員超過状態になったりしたケースもみられました。さらに屋内避難を不安に感じて自家用車などに避難した方も多かったことから避難者が分散し、その把握に相当時間がかかったことも課題として挙げられました。

避難所を指定した

【発災直後の救援物資の動き】

① 全国から救援物資が集まる



② 人手不足、道路寸断などで輸送できる避難所が限られる



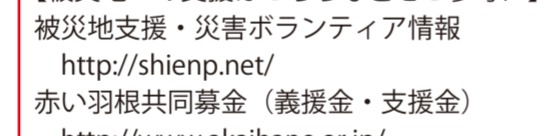
③ 拠点は救援物資で満杯に



④ 避難所間の格差の発生



⑤ 自家用車内など、指定避難所外の避難者は把握が困難なため、支援も行き届きにくい



【被災地への支援はこちらなどをご参考に】
被災地支援・災害ボランティア情報
<http://shienp.net/>
赤い羽根共同募金（義援金・支援金）
<http://www.akaihane.or.jp/>

「災害ボランティア」は誰が運営するの？
現行の法制度のもとでは、被災者の支援は各自治体の役割となっています。また、多くの自治体の地域防災計画では、各市町村の社

多発する自然災害とわたしたちの備え
被災地支援団体からは「明らかに最近自然災害が増えている」という声がよく聞かれるようになってきました。ここ最近、毎年のように災害ボランティアの設置が必要な自然災害が発生しています。今回の

会福祉協議会が被災地で発生しているニーズを把握し、ボランティアを紹介する「災害ボランティアセンター」を運営することになっていきます。

しかし、特に町村部では行政等からの補助金削減も重なり、社会福祉協議会の職員がごく限られているほか、介護保険事業を行なっているところも少なくあります。こうした社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを運営すると、介護が必要の方にサービスを提供できないなど、普段地域で行われている事業やサービスがストップしてしまうことになり、災害ボランティアを受け入れるには、社会福祉協議会だけではなく地域のボランティア団体、NPO、企業などの連携が必要ではないか、という見方も出ています。

一般のボランティアは社会福祉協議会が運営する災害ボランティア活動を実施②被災地救援への専門的なノウハウを持つNPOやNGOが現地のNPO支援センターなどとのネットワークを構成し、災害ボランティアとも情報共有しながら、災害ボランティアでは対応が困難な特別な支援をおこなったり、災害ボランティアや行政に対して必要な施策の提案をおこなう、などといった役割分担の仕組みができています。今回の熊本地震でもそのような仕組みが試みられようとしています。

地震も一部は未知の断層が動いたという見方もでていますが、これまでの想定を超える災害が起こりうるということを改めて認識する必要があります。そのうえで地元自治体で作成しているハザードマップなどを活用して、自分の居住地の被災リスクを把握したうえで、緊急時に持ち出せる非常持ち出し品の整理など、自分たちでできることはしておくことが重要です。一般の大規模災害では概ね3日分の食料備蓄が、大津波などの広域災害に備えるには概ね1週間程度の食料備蓄が呼びかけられています。備蓄する食料の量や中身は家族構成などによって異なりますが、ウェブサイトで様々な食料備蓄の方法が紹介されています。参考にしてみて、無理せず楽しい食料備蓄をはじめてみませんか。

地震も一部は未知の断層が動いたという見方もでていますが、これまでの想定を超える災害が起こりうるということを改めて認識する必要があります。そのうえで地元自治体で作成しているハザードマップなどを活用して、自分の居住地の被災リスクを把握したうえで、緊急時に持ち出せる非常持ち出し品の整理など、自分たちでできることはしておくことが重要です。一般の大規模災害では概ね3日分の食料備蓄が、大津波などの広域災害に備えるには概ね1週間程度の食料備蓄が呼びかけられています。備蓄する食料の量や中身は家族構成などによって異なりますが、ウェブサイトで様々な食料備蓄の方法が紹介されています。参考にしてみて、無理せず楽しい食料備蓄をはじめてみませんか。

地震も一部は未知の断層が動いたという見方もでていますが、これまでの想定を超える災害が起こりうるということを改めて認識する必要があります。そのうえで地元自治体で作成しているハザードマップなどを活用して、自分の居住地の被災リスクを把握したうえで、緊急時に持ち出せる非常持ち出し品の整理など、自分たちでできることはしておくことが重要です。一般の大規模災害では概ね3日分の食料備蓄が、大津波などの広域災害に備えるには概ね1週間程度の食料備蓄が呼びかけられています。備蓄する食料の量や中身は家族構成などによって異なりますが、ウェブサイトで様々な食料備蓄の方法が紹介されています。参考にしてみて、無理せず楽しい食料備蓄をはじめてみませんか。

ことになっている。

A ほかに NPO 法人ならではっていうことはあるの？

B 寄附金や助成金が挙げられるかな。NPO 法人への寄附金や助成金には用途に制約があるケースが存在する。例えば「子どもの成長につながる事業に使って下さい」という第三者からの寄附だったり、高齢者福祉のために使わないといけない助成金だったり。こうした資金は他の事業や法人の運営管理に使うことができず、用途に制約があるので、それを明記することができるんだ。

A へえ、そんなものがあるんだ。

B 決算した段階で、法人全体の剰余金は 30 万円、そのなかには用途が決められた寄附金が 10 万円含まれている、とする。その場合、剰余金は全額翌期に繰り越すのが NPO 法人の原則なので、30 万円をそのまま翌期に繰り越すけど、そのうち 10 万円はあらかじめ決められた用途にしか使えない。事業などに自由に使えるお金は差し引き 20 万円になる、ということがわかるんだ。予算を組む時の判断材料にもなるね。

A 活動計算書、なかなか奥が深そうだな・・・。

NPO 紙上講座 (32) NPO 法人をつくろう！⑬

A NPO 法人の決算書類は「活動計算書」っていうけど、これってどういうこと？

B 「NPO 法人だから経費が抑えられる」ことがある、というのはわかるよね？

A うん、ボランティアの人に協力してもらおうとか、無料の会場を借りて事業をおこなうとか、趣旨に賛同してもらって市価よりも安い価格でサービスを提供してもらったり・・・あれ、前にもこの話題出たよね？!

B そう、わかつく 135 号で取り上げた、「活動の原価を表現することができる」というのが活動計算書の大きなポイントのひとつなんだ。

A 本来は 10 万円かかるような仕事を 5 万円でやってもらった、なんてことが数字上で表現できる、って話だね。

B 単なる数字だけでは判断することが難しい「想い」を少しでも表現できないか、というアイデアだね。ただ、すべての団体がこれをしなければならぬ、ということではなく、明確な基準があって、表現したい、という法人が記載すればいい、という

A NPO 法人の活動を計算書で表現する、っていう

みんなでつくる情報板

わかやまイベントボード

●脱水ってひとことだと思いませんか

いつもの生活で「かくれ脱水」にならないための介護教室です。
日時 5月26日(木) 14:00～15:30
場所 コミュニティプラザぶらり BLISS (ぶらり丁・プリビル1階)
参加費 無料(事前申込み必要)
問い合わせ・申し込み 医療法人 整友会・ぶらり BLISS (073-426-1161)

●子育てを応援する情報交換会

和歌山市内を中心に子育て支援活動をおこなっている団体をゲストにお招きします。
日時 5月28日(土) 14:00～16:00(入退室自由)
対象 幼児・児童を子育て中の方。親子連れでの参加もOKです(保育マットご用意します)。
場所 和歌山ビッグ愛9階会議室C
内容 和歌山市内の子育て支援団体紹介、お楽しみ人形劇、子育て支援や親子向けイベントなどをおこなう県内 NPO の情報コーナーなど
参加費 無料(事前申込み必要)
定員 30名

問い合わせ・申し込み 和歌山県 NPO サポートセンター (073-435-5424・info@wakayama-npo.jp)

●公開講座「心のやまいを知ろう」

みなさんで「心のやまい」への理解を深めませんか。団体の5年間の活動報告も。
日時 5月28日(土) 13:00～15:00
場所 和歌山ビッグ愛9階会議室A
講師 東陸広さん(日本赤十字社和歌山医療センター 精神科部長)、厚坊浩史さん(奈良県立医科大学附属病院 臨床心理士) 定員 80名(先着順)
参加費 無料
問い合わせ NPO 法人心の SOS サポートネット (<http://cocosapo.net/>)

●第3回おとのわコンサート

うたと紙芝居、合唱で楽しませませんか。
日時 5月29日(日) 14:00～15:00
場所 和歌山市民会館第2・第3和室
参加費 ペア 1,500円
主催・問い合わせ 音楽ユニット「おとのわ」(073-461-0386)

このほかの情報もたくさん掲載！
「わかやまイベントボード」URL
PC版 <http://eventboard.shiminjuku.jp/>
携帯電話版 <http://eventboard.shiminjuku.jp/m/>

